伊瀬聖子 | ISE SHOKO

大橋　仁 | OHASHI JIN

田中功起 | TANAKA KOKI

屋代敏博 | YASHIRO TOSHIHIRO

屋代敏博［回転回LIVE！ 横浜市立S中学校 教室2］2005年

日本の新進作家VOL.6

スティル｜アライヴ

Contemporary Art & Photography in Japan: STILL/ALIVE

2007年12月22日(sat)—2008年2月20日(wed)

東京都写真美術館・2階展示室

［恵比寿ガーデンプレイス内］

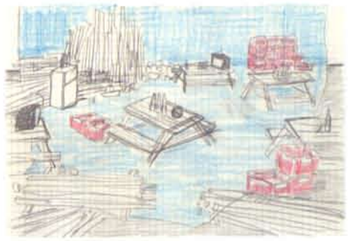
●観覧料＝一般700［560］円／学生600［480］円／中高生・65歳以上500［400］円 ※［ ］内は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員｜小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料｜第3水曜日は65歳以上無料 ●開館時間＝10:00-18:00［木・金は20:00まで］入館は閉館の30分前まで［ただし12月28日(金)は18:00閉館、1月2, 3, 4日は11:00-18:00まで開館］ ●休館日＝毎週月曜日［ただし月曜日が祝日または振替休日の場合、翌火曜日が休館。年末年始は12月29日-1月1日まで休館、1月2日から開館］

●主催＝財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館｜東京新聞 ●助成＝財団法人 地域創造

●協賛＝JHI/EIDO｜凸版印刷株式会社 ●協力＝キヤノン株式会社｜富士ゼロックス株式会社｜サッポロビール株式会社

宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に
役立てられています。



伊瀬聖子 ｜ いせ しょうこ

1969年生、映像作家。兵庫県在住。時間の経過や外的な力によって否応なしに変化していく日常風景や物事を独特の浮遊感と時間感覚をもった映像・写真作品として提示する。スティーヴ・ジャンセン、Human Audio Spongeなど音楽家との映像によるコラボレーションを多数手がける。

大橋　仁 ｜ おおはし じん

1972年生、写真家。東京都在住。日常の人々や物事を被写体として、生と死をストレートに見つめ、他者との出会いの瞬間をとらえた写真作品は、「今ここ」の強烈な感覚をともなって見る者に訴えかける。写真集『目のまえのつづき』(1999年、青幻舎)『いま』(2005年、青幻舎)を刊行。

田中功起 ｜ たなか こおき

1975年生、美術家。東京都在住。日常的な物事に何らかの行為を介在させることによって起こる変化や出来事を映像作品と空間的なインスタレーションによって展開する。複数の映像とありふれた日用品等で構成された空間は多層的な意味の重なりや体験を生み出していく。

屋代敏博 ｜ やしろ としひろ

1970年生、美術家。東京都在住。公共空間や生活空間などの場で自分自身が回転体となる写真シリーズ「回転回」を行う。近年、そのシリーズは一般の人々と共同制作する「回転回LIVE！」に発展する。様々な場所で回転の軌跡を記録した作品の中で身体は場と同化し、または異物となり、見知らぬ他人と時間を共有する。

❶ ❷
❸ ❹
❺ ❻
❼ ❽

❶伊瀬聖子「T.F.L.」2003年、映像作品 ❷伊瀬聖子「photo works」より 2004年、写真作品 ❸❹大橋 仁『新作より』2007年、写真作品 ❺田中功起「新作のためのインスタレーションプラン」より 2007年 ドローイング ❻田中功起「新作のためのリサーチ・フォトグラフ」より2004-2007年 写真作品 ❼屋代敏博「回転回LIVE！横浜市立S中学校 教室1」2005年、写真作品 ❽屋代敏博「回転回LIVE！S高校 卒業式会場」2007年、写真作品

※掲載した❶❷❸❹は参考作品のため、実際の展示とは異なりますのでご了承ください。

Contemporary Art & Photography in Japan: STILL/ALIVE

日本の新進作家VOL.6

スティル｜アライヴ

東京都写真美術館では、「日本の新進作家」として現代作家を紹介する展覧会を毎年継続的に開催しています。第6回目となる本展は「現代人の生と時間、その表現」をテーマとして、写真・映像をメディアとして制作活動を行う30代のアーティスト4人に焦点をあてたグループ展となります。

現代生活において、人はたえず更新される現在の速度に対応して生きていかなければなりません。一方で時代の価値観の変化は、次第にゆっくりとしたものの価値を見直しつつあります。どのように生きるか、どのように時を過ごすかという選択肢はかつてより増えましたが、かつてのように単純に進歩を信じることができず、個人レベルでは大人も子どももどことなく閉塞感をもち、未来に希望を持てない空気が漂っています。写真映像の世界での急速なデジタル化やコミュニケーションツールの発達によって、時間体験は、今や自由自在に編集可能で、当たり前のように反復し共有することができるようになりましたが、同時にそのことが、「今ここ」に生きている感覚を希薄にしつつあります。「時間」というものそれ自体は、目に見えない観念的なものでありながら、人にとって、それぞれの生きた時間は切実にリアルなものとして感じられるはずです。複雑かつ多層化する現実の在り方のなかで、「時」は今、どのように変容し、どのような意味をもっているのでしょうか。

「スティル／アライヴ」とは、静止と運動のことであり、時間という観点から見た写真／映像を表しています。作家たちはリアルな日常世界とたえず交わり刺激をうけながら、時間のイメージを形にしていきます。そこには過去の記憶や未来の予感、そして「今」の時間が刻まれています。また同時にこのタイトルは、「展覧会」という場とその外側にある「現実」の比喩でもあります。作品に込められた様々な時間意識、時間表現と、展覧会を見る人、そこに関わる人が過ごしている時間が交錯し、「今ここ」を生きている感覚が共有されることを本展はめざします。

●担当学芸員による展示解説を会期中第1・3金曜日14時より行います。
会期中の関連イベント等については東京都写真美術館のホームページでご確認ください。

東京都写真美術館 www.syabi.com 2F 展示室

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 TEL.03-3280-0099

■JR恵比寿駅東口改札より徒歩7分・東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩10分。
■当館には専用の駐車場はございません。お車でのご来館の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。